

## TADESKA 議事録

日時 2012年10月6日（土） 10：30～12：30

タイトル 「スペイン語の授業を有意義なものにするために」

担当者 各務 恭子

活動 今回は10月の学会発表の準備もあり、1時間半の枠でのワークショップを行った。

初めに高校での授業の現状を話した後、質問を受け、その後高校でスペイン語を学んだ生徒たちが大学入学後もスペイン語を続けて学ぶ場合、「高校でどういった授業がなされるのがよいか」について話し合った。

### <高校の授業の現状報告のまとめ>

担当者が勤務している三つの高校の内、2校は週に1回2時間続けての授業で1年間のみ、もう1校は週に2回各1時間の授業で原則、生徒は2年間学んでいる。

授業内容はどの高校も文法説明の後、CDで発音練習、プリントなどで補足説明、会話練習などを行っている。学校行事等で抜けることも多く復習に時間を取られる。スペイン語圏の文化、習慣を学ぶ授業もあり、映画鑑賞や短い劇なども授業で行っている。

文法事項については1年間みのクラスでは直説法現在まで、2年間のクラスでは点過去、線過去、現在完了形あたりまで進む。3年生は2学期頃になると大学受験が常に頭をよぎり、スペイン語より英語や数学などの受験科目に力が入る生徒が多くいる。

4つのグループに分かれてブレインストーミングを行い、寄せられた主な意見

### 「高校で学んで欲しい文法事項はどこまでか」

- ☆ 文法事項枠を設定するのではなく学生の身につくこと（基礎を）きっちりと
- ☆ 会話のことを考えたら「過去形」を学ぶことが大事
- ☆ 「スペイン語はこんな言語」とわかる程度の最低限の知識でよいのでは
- ☆ 大学ではゼロから始めるので文法事項を詰め込むより、単語をたくさん覚えておくほうがよい
- ☆ 文法よりつづりと発音の結びつきを理解することが大事

### 「高校での授業はこうあって欲しい」

- ☆ 文化背景などに興味をもたせる授業
- ☆ 生徒が間違いを恐れず積極的に参加する授業
- ☆ スペイン語で会話をしたり、発話する機会の多い授業

### 「その他」

- ☆ 高校のスペイン語の授業は大学のことを意識しないでいいのではないか
- ☆ スペイン語を使って何をするのか目的意識を持つことが大事
- ☆ 高校でスペイン語を学んでくるのはよいが、その生徒が大学でも謙虚にスペイン語を学んで欲しい